

VJCC ホーチミン 静岡県企業の経営塾企業の現場視察の受入れを実施！

2019年11月14日(木曜日)、ベトナム日本人材開発インスティテュート(以下VJCC)では、本年7月に静岡県で実施した商談会に参加した経営塾企業の現場視察を行いたいという日本側のニーズにお応えし、同日午後、ご指名を受けた経営塾企業、計3社の現場視察訪問をアレンジしました。

本視察は、しずおか焼津信用金庫の依頼で実施するもので、本視察ツアーには、静岡県内の日本企業計4社が参加し、密度の濃い商談が行われました。

当日は2つのグループに分かれ、それぞれ、木工関連企業、ドア・サッシ等の製造企業と工業団地等を運営する不動産事業の現場を視察しました。

木工関係企業のグループでは、木材、ガラス等の製造現場を実際に訪れ、工場視察を行った後、同社製品のサービス、製品を紹介する資料・パンフレットを用いた企業紹介、日本企業側との情報交換や質疑応答などが行われました。

今回訪問した木材製造工場では、日本式経営を取り入れた工場運営が行われていました。カイゼン/5Sの研修を社員全員に行っており、徹底した品質管理のもと、主に、いす、机の大量生産を行っている点、また、既に日系企業と取引を行っていること等が説明されました。

静岡からの参加者も、中国、ラオス等ですでに事業展開を行っていますが、ベトナムでのWin-Winの関係に基づく事業展開を新たに行いたいと希望しています。工場見学では、「ここまで5Sを徹底している工場は数少ない。しかし、危険な点も見受けられる」とその場で気づいた点を直接工場長にアドバイスしている場面もありました。

静岡県は日本でも、木工業(家具製品、仏具など)が盛んな地域です。また、ベトナムも現在世界第4位の木工製品輸出国となっています。情報交換の場では、ベトナム企業から、「日本企業は品質に厳しく、発注の数も少ない。さらにビジネス決定が慎重で遅いため、他国企業に先を越されている」と厳しい意見も飛び出しました。それに対し静岡企業の参加者は、「日本は戦時中から現代に至るまで、量より質を重視してきた。それが、今のMade In Japanと言うブランドを作り出している」とベトナム側の理解を求める場面もありました。

もうひとつのグループでは、窓・サッシを製造する地場企業を視察しました。同企業は、ベトナム全土に5つの工場を持ち、著名なビルやホテルなどの窓の設置も手掛ける大企業です。同社もすでに日系企業とパートナーシップを結んでいます。同社も「今後はミャンマーやラオス等の市場に魅力を感じる、日本市場は競合が多く、基準が厳しい」と述べるものの、日本企業との技術提携には積極的に応じていきたい、との回答がありました。日本企業が持つニッチでゆるぎない技術に対する信頼は依然として高いものがあると感じました。

このように、VJCCでは、単なるビジネス交流のみならず、実際のパートナー候補企業への訪問視

察アレンジ等も実施しています¹。実際の現場を視察し、相手企業が求めるものを肌で感じる機会は大変貴重かつ重要です。こうした支援を通じ、VJCC は今後も経営塾・ビジネスコースでのネットワークを基盤に日越ビジネスの活性化に貢献していきます。

経営塾*：VJCC が実施するベトナム企業経営者・幹部に対して、企業経営に必要な実践的な知識を、約10ヶ月かけて学ぶ、体系的な研修制度。自らの力で課題を見つけ、解決策を考え、実践する力を養成することを目的としており、講義の他、ベトナムの事例を題材にしたグループディスカッション、企業訪問など多角的に学べる環境が提供される。講師は主にビジネス経験豊富な日本人の専門家であり、講義やコンサルティングを通じ、経営者の使命や企業の社会的責任含む日本式経営についても教えている。現在ハノイ / ホーチミン / ハイフォンで開講されている。

¹ 基本的には VJCC で研修実施した企業に限ります。



情報交換を行う様子



視察を行う参加者



窓・サッシ製造企業での視察の様子